

次のステップへつなげるために

～就業促進イベント参加者へのアプローチの工夫～

2020年3月



はじめに

平成30年7月に厚生労働省が発表した「第7期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数について」では、2025年度末における介護人材の需要の見込みは約245万人、平成28年度の介護人材の供給数は約190万人であることから、2025年度末までに新たに約55万人の介護人材を確保する必要があります。

こうした状況に対して、国では総合的な介護人材確保対策の主な取組みの一つとして、「多様な人材の確保・育成」を掲げており、具体的な今後さらに講じる主な対策に「中高年齢者等の介護未経験者に対する入門的研修を創設し、研修受講後のマッチングまでを一体的に支援」することとしています。

本事業は上記を踏まえ、介護業界への多様な人材の参入促進を図るため、その中でも主に介護未経験の高齢者を対象とし、地域の介護事業所との効果的なマッチングの方策を調査しました。また、調査にあたっては、福祉人材確保の中核的な役割を担う「都道府県福祉人材センター」（以降、人材センター）が各地域での上記マッチングの実現に重要な役割を果たすことから、人材センターの高齢者及び地域の事業者への更なる効果的なアプローチ方法の検討に資することを目的としています。

本事例集は、介護未経験者を対象とした介護に関する入門的研修（以下：入門的研修）を中心に、高齢者の介護事業所への就業を目的としたイベントに取り組む人材センターや業界団体等へヒアリングを行い、イベント参加者への就業に向けた継続した働きかけ等について、ノウハウや着眼点の参考となる事例を収集し、取りまとめたものです。本事例集が人材センターの高齢者向けイベント等アプローチ方法の検討において、参考としてご活用いただけましたら幸いです。

なお、本事例集の作成にあたり、本文記載の人材センターや業界団体、及び自治体の方々から多大なご協力をいただきました。

この場を借りて厚く御礼申し上げます。

令和2年3月
MS&ADインターリスク総研株式会社

事業概要・本事例集の活用方法

本事例集は、令和元年度社会福祉推進事業「福祉分野への参画を希望する元気高齢者と地域の事業者との効果的なマッチング方策に関する調査研究事業」において、介護の仕事未経験者（以下、未経験者）を対象とした入門的研修を中心に、高齢者の介護事業所への就業を目的としたイベントに取組む人材センターや業界団体等の事例を取りまとめ、全国の人材センターのイベント参加者への就業促進のための効果的なアプローチ方法の検討に資することを目的に作成しました。

(1) 調査対象

入門的研修等の未経験者を対象としたイベントに取組んでいる人材センターや業界団体等から、検討委員会意見も踏まえ以下の4か所を選定。

| 事例 No | 取組主体 | イベント種類 (入門的研修or独自イベント) |
|-------|--------------------------------------|---------------------------|
| I | 医療法人緑の風 老人保健施設いこいの森 (三重県老人保健施設協会) | 独自 |
| II | 社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 かながわ福祉人材研修センター | 入門 |
| III | 社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会 埼玉県福祉人材センター | 独自 |
| IV | 埼玉県 高齢者福祉課 介護人材担当 | 入門 |

(2) 実施方法

上記選定した対象への調査は訪問によるヒアリングを実施した。主なヒアリング項目は以下の通り。

- ①入門的研修等の未経験者向けイベント開催の概要
- ②上記イベント実施直後の参加者への働きかけ
- ③②のうち、すぐには就労に結びつかない人への働きかけ
- ④関係団体との連携・協働

(3) 本事例集の活用方法

- ・各人材センターが未経験者を対象としたイベント参加者に対する就業促進のためのアプローチを検討する上で、参考となる手法及びポイントを掲載しています。
- ・まずは、各事例で共通して見られた工夫や考え方を整理した「取組みの実践にあたってのポイント」(P.4~5)をご一読いただいた上で、各事例を読み進めていただくと、より効果的です。
- ・また、本調査は「高齢者」を対象としておりますが、本事例集に掲載された事例のポイントは子育てを終えた女性や他業種からの転職等、幅広い人材の確保にも活用が可能です。ぜひ参考にしてください。

取組みの実践にあたってのポイント

● イベント参加者を就業へ結びつけていくためのアプローチについて、人材センター等のヒアリングを通じて聴取した取組みから、共通して見られた工夫を以下の4つのポイントで整理しました。

Point 1

就業への不安を軽減する企画と アプローチ対象に合った広報手段

- 高齢者に対しては、介護（福祉）人材として求められていると感じられるような企画・広報が必要です。
- イベントでは、人材センターによるガイダンス等を通じて、「無資格・未経験」でも就業できることを伝え、求職者の不安を軽減しましょう。
- 地域の高齢者が手に取りやすい、目に入りやすい広報手段を検討しましょう。

Point 2

一体的なイベント企画・運営による 強固な導線の構築

- イベント参加から施設見学・職場体験等の次のステップを踏むまでに期間が空くと、参加者の意欲が下がる恐れがあります。
- スムーズに参加者を就業に誘導できるよう「イベント」「相談会」「施設見学・職場体験」を一体的に企画・運営することを検討しましょう。

Point
3

参加者のニーズを確実に聴取し、 状況に応じて介護の仕事と関わり方を提案

- 入門的研修等のイベント参加者は、家庭介護の勉強のために参加した等で必ずしもすぐに就業にはつながらない場合があります。
- また、就業意欲があっても希望する施設の求人情報と合わない等ですぐさま就業できない場合もあります。
- 上記のような場合でも、柔軟に介護の仕事との関わり方を提案し、将来の状況変化によって就業する道を途絶えさせないようにしましょう。

Point
4

地域のネットワークを活用した 広報と参加者フォロー

- 人材センターの人員は限られているため、各地域での多数のイベント開催・運営は非常に苦労されていることでしょう。
- 地域で検討・実施した方が効果的な広報等については、自治体や各市町村社会福祉協議会、ハローワーク等の関係機関と連携して取り組むことを検討しましょう。

事例紹介
(各事例の全体像)

1. 背景・目的

- ・ 医師である施設長の診察を受けている高齢者から、「元気で働きたいのに働き口がない」との声があった。
- ・ いこいの森では、これを契機に介護職員の負担軽減を目的として、「無資格者でもできる業務」を切りだし、その担い手として「介護助手」という新たな職種を創出。採用を開始した。

2. 事例の概要

- ・ 介護助手の採用にあたって、採用を希望する施設ではそれぞれ事前説明会を開催。
- ・ 説明会開催の広報は、三重県老人保健施設協会で作成した共通のチラシを使用。
- ・ チラシの配布手段や配布先は各施設へ任されている。
- ・ 説明会参加者の中で当該施設への就業を希望する高齢者がいた場合は、後日面談を行う。

3. 事例の成果

- ・ 事前説明会では、いこいの森で説明会参加者41名、うち求人への申込者は25名、最終的な採用者は7名であった。
- ・ 他施設でも20名～40名程度の説明会参加があり、それぞれ5～10名の採用へ結びついている。

4. 特筆すべき取組み

| | 取組みの実践にあたってのポイント | 取組みの概要 | 掲載 |
|------|--|--------------------------------|-------|
| 取組み① | Point 1 就業への不安を軽減する企画とアプローチ対象に合った広報手段 | 元気高齢者に対象を絞って説明会を開催 | P.1 2 |
| 取組み② | Point 1 就業への不安を軽減する企画とアプローチ対象に合った広報手段 | 地域の高齢者に合った広報手段を活用 | P.1 4 |
| 取組み③ | Point 3 参加者のニーズを確実に聴取し、状況に応じて介護の仕事と関わり方を提案 | 参加者の要望を聴取しリスト化 継続的なアプローチを実施 | P.2 7 |

1. 背景・目的

- ・ 入門的研修の開催を通じて、介護に興味を持つ高齢者等と人材研修センターの繋がりをつくることを目的として、創設当初の平成30年度から受託した。

2. 事例の概要

- ・ 令和元年度は県内8カ所で実施
- ・ 上記のうち5か所の開催にあたっては、開催地域の市町村社会福祉協議会（以下、市町村社協）と連携し、研修運営の一部を委託している。
- ・ 研修修了者には、アンケートと併せて求職登録及び介護福祉士等届出制度（以下、届出制度）を案内し、センターから継続して情報提供等をできるようにしている
- ・ 研修を開催したエリアでは、後日に出張個別相談会を開催する等して受講後のフォローを行っている。

3. 事例の成果

- ・ 平成30年度は県内5か所で開催し、100人程が研修を修了した。
- ・ このうち、7割程度が届出制度への登録を実施した。
- ・ また、複数名の修了者が介護施設等での就業に結び付いている。

4. 特筆すべき取組み

| | 取組みの実践にあたってのポイント | 取組みの概要 | 掲載 |
|------|--|-------------------------------|------|
| 取組み⑤ | Point 2 一体的なイベント企画・運営による 強固な導線の構築 | 修了者が次のステップへ移る際の 様々な負担を軽減 | P.20 |
| 取組み⑦ | Point 3 参加者のニーズを確実に聴取し、状 況に応じて介護の仕事と関わり方を 提案 | 就職支援ガイダンスで、修了後の 様々なステップを明示 | P.24 |
| 取組み⑨ | Point 4 地域のネットワークを活用した広報 と参加者フォロー | 市町村社協と連携し、効果的・効率 的に研修を実施 | P.30 |

1. 背景・目的

- 平成23年度から福祉職に1歩踏み出せない求職者に向けて、「就職チャレンジ応援プログラム」（以下、チャレンジP）を企画した。

2. 事例の概要

- チャレンジPはハローワークと共催し、各回定員は30名で年10回開催している。
- プログラムは回ごとにテーマを定めており、「基礎コース」「介護資格取得入門コース」「ミドル・シニアコース（50歳以上を対象）」に分かれている。
※参考資料1（P.23）を参照
- 「基礎コース」「ミドル・シニアコース」では、現場職員との座談会を企画することで、求職者が生の声を聴けて、求人票には書いていないことも質問できるようにしている。
- 各回に参加した求職者にはそれぞれ担当のキャリア支援専門員が付き、最終就職までの支援を行う。
- 参加者には直後に必ず施設見学を勧めている。
- 見学は主にチャレンジPへ講師を派遣いただいた施設へお願いしている。

3. 事例の成果

- 平成23年度の全体参加者数は30名程度であったが、平成30年度では全体参加者数が100名ほどになった。
- また、平成30年度参加者の2割程度が就業に繋がった。そのほとんどが無資格・未経験者であった。
- 座談会形式の導入によって、求職者の不安軽減や疑問解消に繋がっている。また、座談会での意見交換が就業の後押しになったとの声もあった。

4. 特筆すべき取組み

| | 取組みの実践にあたってのポイント | 取組みの概要 | 掲載 |
|------|---|----------------------------|------|
| 取組み③ | Point 1 就業への不安を軽減する企画とアプローチ対象に合った広報手段 | 現場職員との座談会を企画し、求職者の不安や疑問を解消 | P.15 |
| 取組み④ | Point 2 一体的なイベント企画・運営による強固な導線の構築 | ハローワークと連携し、効果的な研修運営を実施 | P.18 |

1. 背景・目的

- ・平成28年度から県で実施している「高齢者等介護職員就労支援事業」の1つのコンテンツとして、入門的研修を取り入れた。
- ・そのため、初年度開催時から高齢者の就労支援を軸に考え、実施している。

2. 事例の概要

- ・県事業であるため毎年公募で委託先を決定。平成30年度から民間の人材派遣会社が受託している

《委託会社にて実施している入門的研修の内容》

- ・研修を「アクティブシニア介護チャレンジ」と称し、入門的研修4日間と職場見学・職場体験1～2日間の計1週間程度としている。
- ・研修は職場体験を含むため、1回の参加者は10名程度と少人数に設定。
- ・1回が少人数のため、県内8か所で開催回数を多くしている。
- ・研修会開催の広報・集客に力を入れており、新聞折込チラシ等の様々な方法で参加者を集めている。

3. 事例の成果

- ・平成30年度は200名超が修了し、半数ほどが就業に至った。

4. 特筆すべき取組み

| | 取組みの実践にあたってのポイント | 取組みの概要 | 掲載 |
|------|--|-------------------------|--------|
| 取組み⑥ | Point 2 一体的なイベント企画・運営による強固な導線の構築 | 研修受講から就業へ誘導しやすいプログラムの企画 | P. 2 2 |
| 取組み⑩ | Point 4 地域のネットワークを活用した広報と参加者フォロー | 地域住民への広報を自治体がフォロー | P. 3 1 |

実践のポイント別 各取組み紹介

Point
1

就業への不安を軽減する企画と アプローチ対象に合った広報手段

- ①元気高齢者に対象を絞って説明会を開催
- ②地域の高齢者に合った広報手段を活用
- ③現場職員との座談会を企画し、求職者の不安や疑問を解消

取組み①：元気高齢者に対象を絞って説明会を開催

取組主体

医療法人緑の風 老人保健施設いこいの森（三重県老人保健施設協会）

目的

イベントの対象者を限定することで我が事に思ってもらい、未経験者や無資格者、高年齢者が参加しやすくする

方法

1. 元気高齢者（60歳～75歳）を募集していることを明記

- ・介護助手を募集するにあたり、チラシでは60歳～75歳と年齢帯を示して募集した。
※参考資料1（P.13）を参照
- ・これによって、年齢が制限となって「働き口がない」と考えていた高齢者に「自分たちも働ける」と興味を持ってもらった。

2. チラシには元気高齢者が就業にあたって気になる点を網羅

- ・興味を持ってもらうだけでなく、「自分たちも働ける」「働きたい」と思ってもらうために、チラシには以下のような情報を盛り込んだ。
 - 介護助手は、お部屋の掃除等の「介護の補助的な周辺作業」を行うこと
 - 介護施設で働くことにより、「介護」を学べること
 - 働くことで「介護予防」につながることに
 - 地域社会を作る意義のある役割であること

成果
(効果)

- 対象を絞ってチラシに明記したことで、いこいの森では事前説明会に40名を超える参加者が集まった。
- 「介護の補助的な業務を担うこと」をアピールしたことで、就業へのハードルが下がり、上記参加者のうち半数以上が求人申込に至った。

高齢者を求めていることを明示

地域を支える役割であることをアピール

これからの高齢化社会を支える 元気高齢者「介護助手」 事業へ参加しませんか？



生涯現役!
生涯青春!

この度、老健施設いこいの森で、
60歳～75歳くらいの「介護助手」を募集します。
あなたも、「介護助手さん」として老健施設で働きながら、みんなで支える
「安心できる地域社会」づくりに参加しませんか？

・時給 870円～ ・早朝勤務（6時～9時）1,070円 ・夕方勤務（16時～19時）920円
・週3日程度 勤務時間 6時00分～19時の中で3～4時間程度 ・交通費別途支給（当法人規定）

求める年齢帯を明示

「働きながら介護を学べる」や「介護予防（認知症予防）に繋がる」といったメリットをアピール

介護の補助的業務であり、資格が必要な難しい仕事ではないことをアピール

介護助手さんって!?

老健施設いこいの森で、「事前説明会」を行います!

「介護助手」とは、老健施設内での、お部屋の掃除や食事のお片づけ、ベッドメイク、シーツ交換、園芸など趣味活動のお手伝い、お話し相手など、介護の補助的な周辺作業を担っていただくお仕事です。

事業に参加することにより、老健施設で働きながら、介護のことを学び、自らの健康維持、介護予防、認知症予防につながります。

事前説明会の内容

- ◆介護助手さんって、どんなお仕事？
- ◆老健施設の自立支援に向けた介護について
- ◆認知症予防、介護予防、いこいの森 施設見学会

老健施設の現場職員が講師となって、皆様の色々な疑問や不安にお応えします!

「事前説明会」の会場

会 場：介護老人保健施設 いこいの森
本館1階 食堂

開催日：8月22日(木) 午後2時～4時

住 所：〒510-0303
三重県津市河芸町東千里3-1

連絡先：いこいの森 総務 小野まで
☎ 059-245-6677



取組み②：地域の高齢者に合った広報手段を活用

取組主体

医療法人緑の風 老人保健施設いこいの森（三重県老人保健施設協会）

目的

説明会に参加して欲しい地域の高齢者に合った広報手段を活用し、開催の情報を対象の手元に届きやすくする

方法

1. 地域の高齢者の集客のため、「紙媒体」かつ「地域密着」の広報手段を活用

- ・ イベント開催に関わる広報手段としては、各所へのチラシ設置や法人ホームページへの掲載等が考えられた。
- ・ いこいの森では、近隣にある団地に高齢者が多く住んでいることから、施設周辺の地域に住む高齢者を対象として広報手段を検討した。
- ・ 検討の結果、以下のように広報を実施することとした。
 - 新聞折込チラシでの広報を実施。
 - 新聞は朝日新聞と中日新聞の2紙を選定。配布先は16,000世帯ほど。
 - 配布タイミングは説明会開催の1週間前の土曜or日曜の朝刊に1回だけ入れる

成果
(効果)

- 説明会開催の1週間前の新聞の折り込みチラシ1回で40名以上の参加者があり、求人の申込者も6割以上ある。

就業への不安を軽減する企画と アプローチ対象に合った広報手段

取組み③：現場職員との座談会を企画し、求職者の不安や疑問を解消

取組主体

社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会 埼玉県福祉人材センター

目的

- ・介護（福祉）の仕事に対する就業への不安を軽減する
- ・現場職員とのコミュニケーションによって、現実的に就業を検討してもらう

方法

1. 双方向のコミュニケーションで求職者の不安や疑問を解消

- ・平成23年度の開始当初は、「現場職員の体験発表」や「施設長による採用者目線での就活のポイント」のように、求職者は講師の話聞くだけの内容であった。
- ・一方的な内容であったため、改めて最終就職までのマッチングを重視し、平成26年度から内容を変更した。
- ・座談会形式でのセミナーを企画し、講師となる現場職員と参加者で双方向にコミュニケーションが取れるようにした。
- ・座談会を円滑に進めるため、以下のような工夫をしている。
 - 参加者の要望に合わせて、高齢・障害等の種別でグループ分けをしている
 - 現場職員からは「働く喜び・施設での働き方や考え方・施設が求める人物像」をテーマに、自身の1日の業務内容や体験談等を中心に、座談会の冒頭で説明してもらう

成果 (効果)

- 平成23年度の全体参加者数は30名程度であったが、平成30年度では全体参加者数が100名ほどになった。
- 平成30年度参加者の2割程度が就業に繋がった。そのほとんどが無資格・未経験者であった。
- 座談会形式の導入によって、求職者の不安軽減や疑問解消に繋がっている。また、座談会での意見交換が就業の後押しになったとの声もあった。

福祉業界へのチャレンジを応援します！

福祉業界就職チャレンジプログラム 10月～2月版

福祉人材センターでは、福祉業界に興味関心がある方や、就活したい方へ支援する「福祉業界就職チャレンジプログラム」を毎月開催します。あなたにあったプログラムを見つけてご参加いただき、ぜひ、福祉業界にチャレンジください。

参加者全員に参加記念品をプレゼント

基礎プログラム

福祉業界の基礎知識
福祉の仕事や資格の種類、求人状況など福祉の仕事の基礎について学びます。

※現場職員レポート・座談会
『働く喜び、働き方や考え方、福祉施設が求める人物像』高齢・障害福祉施設に勤務する現役職員から、実際の1日の業務内容やケアの基本・体験談等も聞き、座談会で質疑や意見交換を行います。
※介護の魅力PR隊：埼玉県知事から任命を受けて福祉・介護の魅力をお伝えしています

介護資格取得入門コース

就活に有利！就職後も即役立つ！介護資格の種類や内容・取得方法等基礎的な知識を学びます。

ミドル・シニアコース

55歳以上の方へ・・・年齢が高くても採用したいと思われる人は？採用者視点で徹底解説
福祉業界の基礎知識や現場職員を交えた座談会での意見交換もを行います

| 日時 | 会場 | 参加対象 | プログラム内容 |
|--------------------------|------------------------|----------------|-------------|
| 10月11日（金） 13:00～16:00 | ハローワーク浦和・ 就業支援サテライト | どなたでもご参加いただけます | 介護資格取得入門コース |
| 10月13日（水） 13:00～16:00 | | 50歳以上の方 | ミドル・シニアコース |
| 12月11日（水） 13:00～16:00 | 武蔵浦和駅徒歩3分 ラムザタワー3階 | どなたでもご参加いただけます | 基礎プログラム |
| 1月20日（月） 13:00～16:00 | 案内図は裏面 | 50歳以上の方 | ミドル・シニアコース |
| 2月10日（月） 13:00～16:00 | | どなたでもご参加いただけます | 基礎プログラム |

| | | | |
|------|--|-----|-------------------|
| 定員 | 各回とも30名 | 参加費 | 無料（交通費は自己負担となります） |
| 申込方法 | 裏面「申込書」に必要事項を記入して、福祉人材センターへ持参、郵送又はファクシミリで送付してください。 福祉人材センターホームページからも申込みできます。※埼玉県福祉人材センター及びハローワーク浦和・就業支援サテライトに未登録の方はプログラム当日に登録をお願いします。 | | |

あなたに合った福祉・介護・保育の仕事を紹介します！

主催 社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉人材センター
共催 ハローワーク浦和・就業支援サテライト

現場職員を招いた座談会を企画

プログラム内には55歳以上の求職者を対象としたコースを創設

上半期5回、下半期5回の計10回開催

実践のポイント別 各取組み紹介

Point
2

一体的なイベント企画・運営による 強固な導線の構築

- ④ハローワークと連携し、効果的な研修運営を実施
- ⑤修了者が次のステップへ移る際の様々な負担を軽減
- ⑥研修受講から就業へ誘導しやすいプログラムの企画

取組み④：ハローワークと連携し、効果的な研修運営を実施

取組主体

社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会 埼玉県福祉人材センター

目的

- ・ 求職者へのイベント周知を広く行って、参加者を集める
- ・ イベントをハローワーク窓口にある建物で実施することで、施設見学等へスムーズに移行させる

方法

1. ハローワーク窓口等で求職者へイベント周知を依頼

- ・ チャレンジPの参加者募集のため、以下のハローワーク窓口等で上期・下期の2回に分けてチラシを置いていただく等の協力を得た。
 - 県内公共職業安定所（埼玉労働局含む）
 - 県内ハローワークプラザ
 - マザーズハローワーク
 - 県内ふるさとハローワーク

2. 相談窓口のある建物内でイベントを開催

- ・ チャレンジPの各回は、ハローワークが所在する建物内に会場を設けて実施。
※参考資料3（P.19）を参照
- ・ イベント後に就業に興味を持った参加者がいれば、すぐに同建物内にある窓口へ誘導。次のステップである施設見学や職場体験の申し込みがその場でできる。
- ・ イベント参加から次のステップに移行するまでに間が空いたり、人材センター等の窓口が自宅から遠くにあると、機会を逸してしまう可能性がある。
- ・ そこで、イベント参加から間を空けずに負担も少ない方法で次のステップへ移行できる流れを構築した。

成果
(効果)

- 平成30年度参加者の2割程度が就業に繋がった。

福祉業界就職チャレンジプログラム 参加申込書
 ファクシミリ送信先番号：048-833-8062
 福祉人材センターホームページからも申込み出来ます。

| | | |
|---------------------|--|---------------|
| 申込回 (該当に○) | () 10月11日(金) | () 11月13日(水) |
| | () 12月11日(水) | () 1月20日(月) |
| | () 2月10日(月) | |
| ふりがな 氏名 | | |
| 住所 | 〒 | |
| 連絡先電話番号 | - | |
| 現在の状況 | <input type="checkbox"/> 学生 (学校名: _____ 年生) <input type="checkbox"/> 無職 <input type="checkbox"/> 就業中 <input type="checkbox"/> その他 (_____) | |
| 希望分野 | <input type="checkbox"/> 高齢 <input type="checkbox"/> 障害 <input type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> 保育 <input type="checkbox"/> その他 (_____) | |
| 希望職種 | <input type="checkbox"/> 相談、支援、指導員 <input type="checkbox"/> 介護職 <input type="checkbox"/> 保育士 <input type="checkbox"/> その他 (_____) | |
| 希望雇用形態 | <input type="checkbox"/> 正職員 <input type="checkbox"/> 非常勤 (パート) | |
| 福祉人材センター 求職登録の有無 | <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (登録番号 _____) | |
| お持ちの福祉資格 | | |

このプログラムで学びたいことや伝えたいことなどを御記入ください

会場案内図

《ハローワーク浦和・就業支援サテライト》

住所：さいたま市南区沼影1-10-1
 武蔵浦和ラムザタワー3階

J R 埼京線・武蔵野線
 武蔵浦和駅西口より
 徒歩約3分

電話：048-826-5601 (代表)

社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会 福祉人材センター

〒さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ1階

TEL 048-833-8033 (10時～12時、13時～17時)

時間 月～金曜日(年末年始・祝祭日除く) 10時～17時

※福祉人材センターのホームページからもできます。

埼玉県福祉人材センター または右のQRコードから

ハローワークが
所在する建物を
会場としている

同建物内に人材
センター出張窓
口があり、プロ
グラム参加者を
誘導

取組み⑤：修了者が次のステップへ移る際の様々な負担を軽減

取組主体

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 かながわ福祉人材研修センター

目的

修了者が次のステップへ進むためにかかる時間や手間を減らし、より就業に結び付きやすくする

方法

1. 資格届出・求職登録のための独自エントリーシートを作成

- ・修了者へ次のステップに繋がる情報を提供するために、「福祉のお仕事」への資格届出や求職登録が必要。
- ・しかし、研修当日は修了者が登録作業をする時間がない。また、高齢者はWebの登録作業を負担に思う方が多い。
- ・そこで、紙の独自エントリーシートを作成。記入項目は求職登録に必要な最低限の項目とした。※参考資料4（P.21）を参照
- ・記入者の承諾を得られれば人材センターが代行登録できる仕組みとし、修了者の求職登録作業の負担を軽減した。
- ・また、シートは複写式にして、記入者控えと人材センター提出分を分けることで個人情報取得に配慮した。

2. 研修を開催した地域で出張相談会や施設見学会を企画

- ・修了者は次のステップへ移る相談をするために人材センターの窓口へ訪問する必要がある。
- ・これには時間的負担（移動時間）や精神的負担（交通費などの費用、訪問の日程調整等）が大きい。
- ・そのため、人材研修センターを介した就業に向けた活動に踏み出しづらくなる。
- ・そこで、研修の開催地域で出張個別相談会や施設見学会を企画した。
- ・これによって、時間的負担や精神的負担を軽減し、次のステップへ移行しやすくした。
- ・また、開催日程も研修修了直後に設定することで、介護の仕事に興味を持った修了者がすぐに次のステップを踏めるよう工夫した。

成果
(効果)

- 平成30年度の入門的研修の修了者の7割程度が届出制度への登録を実施した。
- 複数名の修了者が介護施設等での就業に結び付いている。

記入日

(入門的研修)修了者の皆様へ

福祉のお仕事 エントリーシート

<「福祉のお仕事」とは> 福祉、介護、保育の求職活動を支援する、社会福祉法人 全国社会福祉協議会 中央福祉人材センター運営のホームページです。

すでに登録済みの方はご記入不要です

| | | | |
|--------------|-----------------------|-----|-------|
| 姓 名 | | | |
| 名 前 | 生 年 月 日 | 西 暦 | 年 月 日 |
| 電 話 番 号 | メ ー ル ア ド レ ス | @ | |
| 住 所 (任 意) | | | |
| 所 属 | 学 生 ・ 一 般 就 労 ・ そ の 他 | | |

上記内容について「福祉のお仕事」に、かながわ福祉人材センターより登録手続きをすることを承諾いたします。(承諾される方は✓してください)

「福祉のお仕事」はこちらからご覧になれます。

「福祉のお仕事」登録メリットはこんなところ

- 1 紹介依頼 求人票を掲載している事業所への紹介をかながわ福祉人材センターに依頼できます。希望に応じてキャリア支援専門員が相談しながら就職活動をお手伝いいたします。
- 2 応募 求職者マイページ上での応募が可能です。*
- 3 お気に入り登録 関心のある求人情報をお気に入り登録しておけます。*
- 4 情報提供 かながわ福祉人材センターのイベントや相談会などの案内がタイムリーに受け取れます。
(注：*2と3についてはマイページ登録が必要です。)

に関するお問合せは
かながわ福祉人材センター ☎045-312-4816 FAX045-313-4590 jinzai@knsyk.jp
 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター13階

かながわ福祉人材センターホームページは
 こちらからご覧になれます。

個人情報の取り扱いについて

本エントリーシートは「福祉のお仕事」求職登録及びかながわ福祉人材センター事業以外に使用することはありません。社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会プライバシーポリシーに則って適正に取り扱います。

プライバシーポリシーはこちら ➡ http://www.knsyk.jp/s/global_syakyou/plivacy_top.html

2019.1増

届出者(介護)の登録 同意します。

登録に必要な最低限の項目に限定

人材センターによる代行登録の許可を得る

シートは複写式であり、個人情報の取り扱いにも配慮

取組み⑥：研修受講から就業へ誘導しやすいプログラムの企画

取組主体

埼玉県 福祉部高齢者福祉課

目的

研修と施設見学・職場体験を一体化して、修了後に就業へ結びつけやすくする

方法

1. 入門的研修と施設見学・職場体験をパッケージ化

- ・ 入門的研修と施設見学・職場体験を合わせた1週間程度のカリキュラムを作成。
※参考資料7 (P.32) を参照
- ・ 開催場所によっては、介護施設を会場として午前に講義を行い、午後に職場体験を実施するといったカリキュラムの工夫をしている。
- ・ 「研修」と「施設見学・職場体験」を一体化することで、期間を空けずに就業に向けたステップを踏むことができ、地域の事業者とのマッチングにスムーズに移行できる

成果
(効果)

- 平成30年度は200名超が修了し、半数ほどが就業に至った。

実践のポイント別 各取組み紹介

Point
3

参加者のニーズを確実に聴取し、状況に応じて介護の仕事と関わり方を提案

- ⑦就職ガイダンスで、終了後の様々なステップを明示
- ⑧参加者の要望を聴取しリスト化。継続的なアプローチを実施

参加者のニーズを確実に聴取し、状況に応じて介護の仕事と関わり方を提案

取組み⑦：就職支援ガイダンスで、修了後の様々なステップを明示

取組主体

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 かながわ福祉人材研修センター

目的

- ・研修修了後の就業に向けた次のステップをイメージしやすくする
- ・すぐには就業に結び付かなくとも、他の選択肢を提示することで、「介護の仕事」との関わりを絶やさない

方法

1. 修了後の就職支援の流れを示し、施設見学・職場体験へ繋げる

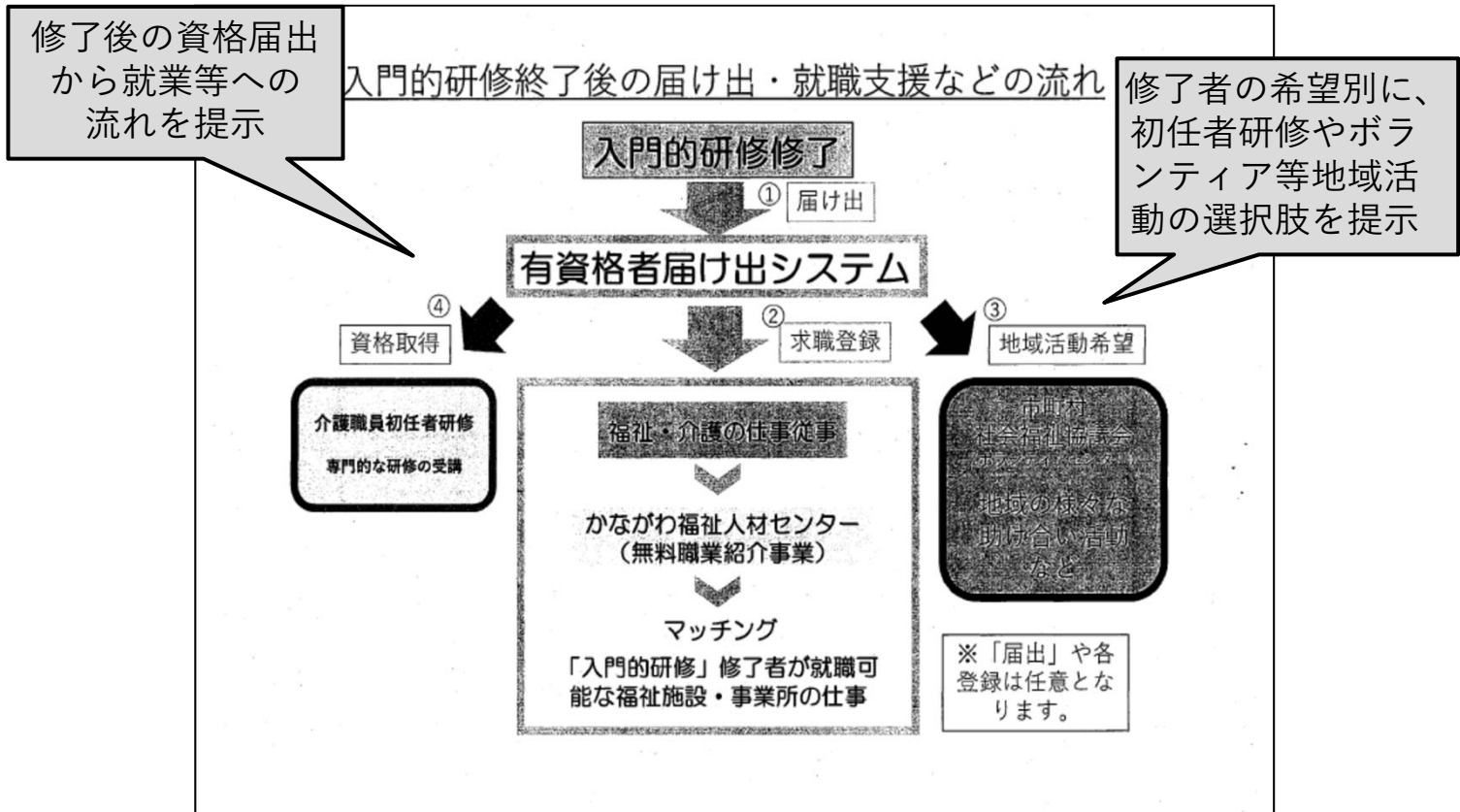
- ・カリキュラムは基本の21時間に、独自に振り返りと就職支援ガイダンスを加えた23時間とした。
- ・ガイダンスでは、主に以下のような内容を説明し、研修修了後の次のステップが具体的にイメージできるようにしている。※参考資料5（P. 25～26）を参照
 - 研修修了後の介護福祉士等届出システムへの登録
 - 人材センターを介した事業所とのマッチングの流れ
 - 仕事探しのポイント（施設見学・職場体験の推奨）
 - 「初任者研修」及び「ボランティア、助け合い活動」の紹介
 - 求人票を探す際に知っておくべき用語の解説

2. 就業以外の「介護の仕事」に関われる選択肢を示す

- ・入門的研修受講者のニーズは、就業に限らず「家庭介護の勉強がしたい」等もあり、想定以上に広がった。
- ・そのため、修了者全員がすぐさま就業に向けた次のステップへはつながらないことが分かった。
- ・一方で、研修を通じて「介護」や「介護の仕事」を学んだ修了者は、中長期的には状況や心境の変化によって、就業に結び付く可能性のある候補者であると捉えた。
- ・そこで、一度できた繋がりを絶やさないことが重要と考え、「介護の仕事」に関われる他の選択肢（ボランティアや地域の助け合い活動）も案内することとした。
- ・これらの案内は上記ガイダンスで行うが、市町村社協と連携している会場では、市町村社協の担当者からボランティア登録等を案内する時間も設けている。

成果
(効果)

- 平成30年度の入門的研修の修了者の7割程度が届出制度への登録を実施した。
- 複数名の修了者が介護施設等での就業に結び付いている。



施設見学や職場体験を推奨

応募先を絞り込むために・・・
見学・体験する

まずはいくつか見学し、話を聴いてみましょう！

見学して分かること

- ・HPでは把握しにくい法人の理念や目標
- ・職場の雰囲気・働いているスタッフの様子
- ・利用者の様子
- ・職員の挨拶や笑顔で対応しているか
- ・職場環境 清潔・整理されているか 等々

ボランティアをしながら、「自分にできそうか」や「この施設と合うか」を見極めるよう説明

* すぐ仕事をするのが不安な場合は、ボランティアなどさまざまな活動を試してみる

福祉のしごと・求人票の用語解説

○資格要件・・・ 必須 見込み 望む

シフト勤務（入所サービスの場合）

○勤務時間・・・ 早番・日勤・遅番・夜勤

求人票を探すにあたって、知っておくべき用語の意味等を解説



○夜勤と宿直の違い・・・

「法定労働時間内の勤務」

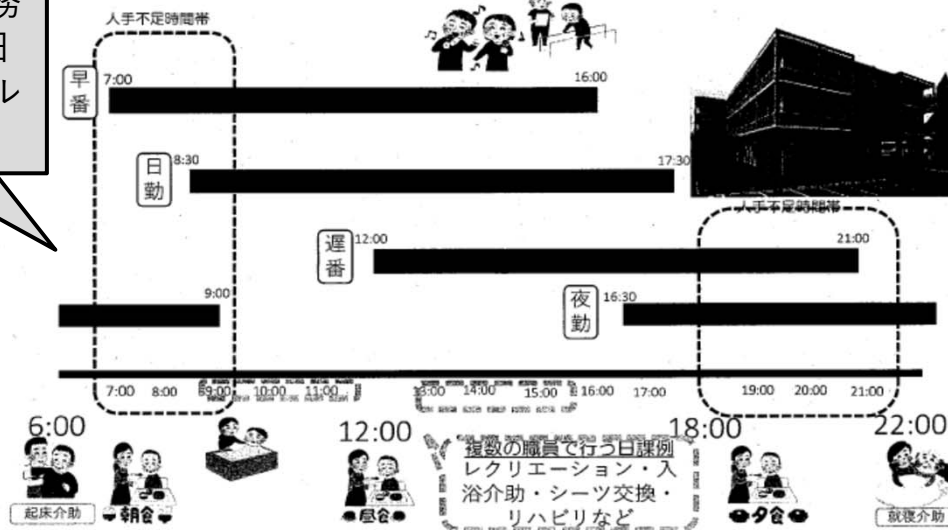
であるかどうかなど

就業にあたってのメリットや特徴を例示

入所施設（大規模）のシフト例

- 介護技術が向上される
- 後方支援業務があるところも
- 非常勤のシフト調整がしやすい

施設種別や勤務形態ごとの1日のスケジュールを例示



参加者のニーズを確実に聴取し、状況に応じて介護の仕事と関わり方を提案

取組み⑧：参加者の要望を聴取しリスト化。継続的なアプローチを実施

取組主体

医療法人緑の風 老人保健施設いこいの森（三重県老人保健施設協会）

目的

就業にあたっての要望がその時の施設事情と合わなかった求職者でも、人員の異動・退職等があった際に再度アプローチできるようにする

方法

1. 参加者へアンケートで働きたい曜日や時間帯を聴取

- ・説明会では、参加者へアンケートを実施
- ・記載項目に「働きたい曜日や時間帯」を設けて、要望を確認している。
※参考資料6（P.28）を参照
- ・また、参加者へ「早朝と夕方は人手が足りない」旨をアナウンスし、あらかじめ施設側希望を伝えている。

2. 聴取した要望をリスト化し、採用候補として継続したアプローチを実施

- ・説明開催時の施設事情と働きたい曜日等の要望が合わないこともある。
- ・そこで、アンケートで聴取した情報をリスト化し、先々で人員の異動や退職によって空きが出た際に、リストからマッチする対象者にアプローチしている。
- ・アンケートを記入してもらう際には、「追加募集時に改めて連絡してよいか」を確認している。

成果
(効果)

- 事前に参加者に「働きたい曜日や時間帯」の要望を確認することで、施設事情とのミスマッチを未然に防ぐことができ、リスト化することで、移動や退職によって空きが出た際に対象者にアプローチできるようになった。

<事前説明会参加者アンケート>

令和元年8月22日

各位

いこいの森

本日は、お忙しいところ「いこいの森」の介護助手事前説明会にご参加いただきまことにありがとうございます。

つきましては、今後の参考にさせていただきたくアンケートにご協力をよろしくお願い致します。

1. 事前説明会に参加して「いこいの森」で働きたいと思いましたが？
(どちらかに○をしてください)

- ① 働きたいと思う ② 働きたいと思わない

2. 働きたいと思われた方にお聞きします。

(1)ご都合の良い曜日および時間帯を記入してください。

- ①日曜日 (時 ~ 時)
 ②月曜日 (時 ~ 時)
 ③火曜日 (時 ~ 時)
 ④水曜日 (時 ~ 時)
 ⑤木曜日 (時 ~ 時)
 ⑥金曜日 (時 ~ 時)
 ⑦土曜日 (時 ~ 時)

※ご希望に添えない場合や曜日および時間帯の変更をお願いする場合があります。

(2)差支えなければご連絡先を記入してください。

住 所 : _____

氏 名 : _____

電話番号 : _____

3. その他お気づきのことがあれば記入してください。

ご協力ありがとうございました。

就業にあたって、
希望の曜日・
時間帯を聴取

連絡先を聴取し、
リスト化。
説明会では口頭で
追加募集時に連絡
してよいか確認

実践のポイント別 各取組み紹介

Point
4

地域のネットワークを活用した 広報と参加者フォロー

- ⑨市町村社協と連携し、効果的・効率的に研修を実施
- ⑩地域住民への広報を自治体がフォロー

取組み⑨：市町村社協と連携し、効果的・効率的に研修を実感

取組主体

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 かながわ福祉人材研修センター

目的

- ・人材センターの限られた人員で、多くの地域で研修を開催し、受講者を集める
- ・修了者のほとんどは居住地で就業を希望するため、地域の関係機関でもフォローできる体制をつくる

方法

1. 地域で検討・実施した方が効果的な事項を市区町村社協へ委託

- ・人材センターの限られた人員で、複数の地域での研修運営や受講者募集を行うことは限界がある。
- ・そこで全8か所のうち5か所について、研修運営の一部を開催地域の市町村社協へ委託し、効率的に複数の地域での研修運営を行えるようにした。
- ・研修運営の中で「会場の確保」や「研修の広報・集客」等は、地域の状況を把握している市町村社協の方が効果的な方法を検討・実施できると考え、委託している。
- ・なお、研修カリキュラムや研修テキストは人材研修センターにて作成し、開催地ごとに内容に差が出ないようにしている

2. 修了者のほとんどが居住地で就業を希望することを見据えての連携

- ・研修受講者の大半は開催地域周辺の住民であり、「自宅に近い場所で働きたい」と考える求職者は多い。
- ・そのため、市町村社協と連携することで、ボランティアへの登録や事業所への求人等で修了者をフォローしてもらう。

成果
(効果)

- 平成30年度の入門的研修の修了者の7割程度が届出制度への登録を実施した。
- 複数名の修了者が介護施設等での就業に結び付いている。
- 各地での開催を通じて、市町村社協や講師を派遣した地域所在の事業所を知ってもらえるため、修了後のフォローにも繋がっている。

取組み⑩：地域住民への広報を自治体がフォロー

取組主体

埼玉県 福祉部高齢者福祉課

目的

説明会に参加して欲しい地域の高齢者が集まる場所へチラシ掲示等をするため、委託会社が門前払いとならないよう自治体がフォローする

方法

1. 公的施設等へのチラシ配布・掲示ができるよう、自治体がフォロー

・研修会開催の広報・集客に力を入れており、以下のように幅広い広報手段を取っている。

- 市町村の広報誌への掲載
- 新聞への折り込み
- 公民館のイベント等で県庁職員が話す
- ハローワークへのチラシ共有、各所へのポスター掲示 等

・上記のようなハローワークとのチラシ共有、公民館等公共施設へのポスター掲示については、民間会社から依頼しても門前払いとなる可能性がある。
・そのため、必要に応じて県から関係各所へ事前に一報を入れる等した

成果
(効果)

■平成30年度は200名超が修了し、半数ほどが就業に至った。

埼玉県委託「令和元年度 埼玉県高齢者等介護職員就労支援事業」

埼玉県委託事業窓口 埼玉県福祉部高齢者福祉課

生涯現役! 60歳から始めよう!

参加費無料!
大募集

アクティブシニア 介護チャレンジ

地域貢献や高齢者支援に興味はあるけど、「自分に出来るか心配…」
「まだまだ働きたいけど未経験なので不安…」そんなシニアの方々に朗報です!
あなたがこれまで培ってきた経験を存分に活かせるお仕事があります。
ご近所の介護施設において、ちょっとしたお手伝いをしてみませんか?



対象者を「60歳以上」かつ「施設での就業希望者」と限定して明示

対象者

60歳以上の方で、
介護施設での
就業を希望している方

研修内容

入門的研修(4日間)
+
職場見学・体験研修(1~2日間)

お仕事の一例

- 館内清掃
- 洗濯・衣類の整理
- 食事の準備・片付け・配膳
- リネン(シーツ等)の交換
- 入浴の準備・片付け

※就業先の施設により異なります。

当事業のフロー

説明会に参加

▼

介護の入門的研修に参加

▼

就業相談・お仕事相談

▼

職場見学・体験研修に参加

▼

面接等

▼

就職決定

埼玉県マスコット
「コバトン」

※介護職(身体介護等)としての就労を希望する方は、「介護職員初任者研修」を無料で受講する事も出来ます。

ホームページに詳細情報を掲載中!

senior-kaigo.com

http://www.senior-kaigo.com

運営 株式会社シグマスタッフ 大宮支店 (受託事業者)

TEL 048-871-9931

シグマスタッフ

さいたま市大宮区桜木町1-9-1 三谷ビル7階 FAX:048-782-5175
一般労働者派遣事業(派13-304719) 有料職業紹介事業(13-ユ-304566)

担当課 埼玉県福祉部 高齢者福祉課 TEL 048-830-3232

次のステップへつなげるために
～就業促進イベント参加者へのアプローチの工夫～

発行月：令和2年（2020年）3月

発行者：MS&ADインターリスク総研株式会社

令和元年度 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業
「福祉分野への参画を希望する元気高齢者と地域の事業者との
効果的なマッチング方策に関する調査研究事業」

